

科目名称	薬理各論	学年学期	単位数	時間数
		2 学年前期		35
担当教員	高久保文恵	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (薬剤師) <input type="checkbox"/> 無	

【1】 授業概要

看護師は正しい知識をもって薬を使用し、患者への適切な投薬と服用指導を行わなければならない。そのような将来のニーズに対応できるよう、薬の基礎から臨床で繁用される薬まで幅広く理解を深め、応用力をつける。

【2】 学習目標

1. 将来の土台となる基礎的な薬の知識を理解する。
2. 患者への適切な薬の使用と指導のために、その知識を応用し適切に判断できるようになる。
3. 薬を扱う一般的な技術を習得する。

【3】 ディプロマポリシーとの関連性

- I. 人に関心を持ち多様な人間を理解する力
- 1. 人間を生活者として捉えることができる。
 - 2. 人間の生命、尊厳及び権利を尊重し、多様な価値観をもつ人間を理解することができる。
- II. 看護を実践する力
- 1. 対象の健康状態の変化に気づくことができる。
 - 2. 安全に科学的根拠に基づいた看護援助を実践できる。
 - 3. 様々な場で生活する人々を支援するための援助を考えることができる。
- III. 人間関係を構築する力
- 1. 対象とより良い人間関係を築くことができる。
 - 2. 多職種と連携・協働するための人間関係を築くことができる。
- IV. 主体的に学び続ける力
- 1. 自己の資質向上のために学び続ける必要性を理解できる。
 - 2. 自己の看護観をもちキャリアデザインを描くことができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	神経系・筋に作用する薬物	講義
2	麻酔薬、鎮痛薬、神経変性疾患などに用いられる薬物	講義
3	代謝系・内分泌系に作用する薬物	発表
4	高尿酸血症の治療薬、骨・カルシウム代謝薬、甲状腺疾患治療薬など	発表
5	炎症・アレルギー・免疫に作用する薬物	講義
6	循環器系に作用する薬物	講義
7	狭心症治療薬、抗不整脈薬、心不全治療薬など	講義
8	血液・造血器官に作用する薬物	講義
9	呼吸器系に作用する薬物	講義
10	消化器系に作用する薬物	講義
11	泌尿器・生殖器系に作用する薬物	講義
12	抗感染症薬	講義
13	抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗原虫薬・抗寄生虫薬	講義
14	抗悪性腫瘍薬	講義
15	消毒薬、漢方薬	講義
16		講義
17		講義
18	筆記試験	試験

【5】 評価方法

1. 終講時テスト:80%、発表:10%、提出物・授業態度・出席:10%の総合評価

【6】 教科書

木村 直史 他著 看護学入門2「薬物と看護」第4版 メヂカルフレンド社 2022年

【7】 参考書

授業中にプリントを配付します。

【8】 受講生へのメッセージ

教科書を読み、しっかり予習してから授業に臨みましょう。